

シリーズ28回目のテーマは《川をきれいに》

地球環境
ノート

VOL. 28

「北海道発・地球環境ノート」は、「持続可能な社会」を実現するために、地球温暖化防止に向けた温室効果ガス25%削減の取り組みをはじめ、今すぐ実践できる“地球にやさしい生活”をシリーズで幅広くお伝えします。

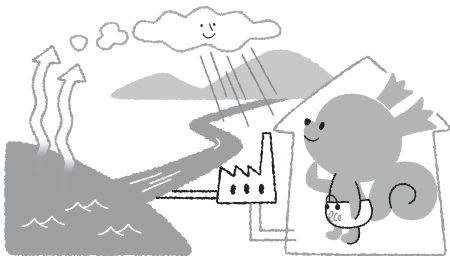


HOKKAIDO! ECO

地球の“いま”と向き合い、“いま”に気付いて、“いま”から思いやりのある行動を

地球にやさしい・エコプロジェクト

-1- 水は循環しながら暮らしを支えているんだね



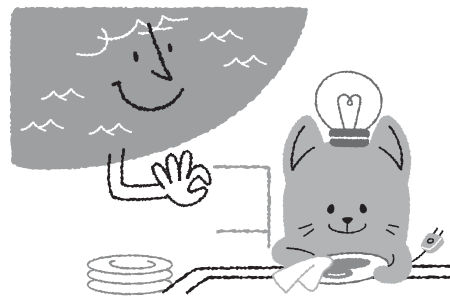
わたしたちが使う水の量は、1人1日250リットルといわれています。キッチンやお風呂、トイレなどで流す水(生活排水)は、下水処理場などで処理されたあと、川や海へ流されます。やがて水蒸気になって空へ昇り、雨や雪になって地上に降り、川になります。そして浄水場を経て、再びわたしたちのもとへ戻ってきます。

-2- 川には水をきれいにする力があるのさ



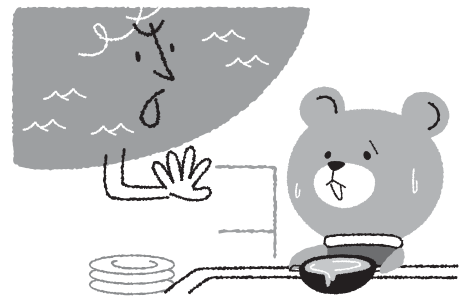
地球は水をきれいにする星。わたしたちが流した水は、浄水場できれいになるだけでなく、自然を巡りながら少しずつ浄化されます。川や海、土の中にいる微生物が、水の汚れを分解してくれるのです。いわば自然は、大きな浄化装置。わたしたちがきれいな水をいつまでも使い続けるためには、自然を守ることが大切です。

-3- 汚れはなるべく流さないのがマナーだよ



自然には浄化能力があるとはいえ、その限度を超えた汚れを大量に流すと、川や海の水質はどんどん悪化してしまいます。水の汚れは魚などの水産物に影響を与え、それを食べる動物や人の健康にも害を及ぼします。汚れはできるだけ流さないことが自然へのマナーであり、わたしたち自身の健康を守ることもつながります。

-4- 天ぷら油はリサイクル生ごみは流さないようにね



生活排水の多くはキッチンから。食べものを流さないことがポイントのため、料理は食べきれぬ量をつくり、残さないようにしましょう。食器を洗う時は洗剤の適量を守り、ひどい汚れはふき取ってからに。生ごみを流さないよう水切り袋を利用したり、使用済みの天ぷら油はリサイクルに出すか、要らない紙に吸わせて捨てましょう。

きれいな川を
守ろう

きょうは川のごみ拾い
たくさん落ちているかと
思っていたけど
意外に少なくて感心したよ
きれいな川を守るために
みんな気を付けているんだね



水辺の環境を守るために

「住民参加の川づくり有志の会」(江別市)の取り組み

江別を流れる篠津川のほとりに、中津湖という沼がある。ヘラブナや水鳥がすみ、とてもきれいな所じゃよ。この環境を守っているのが「住民参加の川づくり有志の会」の皆さんじゃ。近くの農家の方たちがつくった団体で、LION TOP ECO プロジェクト「第2回きれいな川と暮らそう」基金の助成先にも選ばれておる。代表の桑原さんにお話を聞いてみよう。

中津湖の自然環境をわたしたちの手で未来へ



代表の桑原則男さん

「10年前から中津湖と篠津川のごみを拾うイベント」篠津川の環境整備」を実施しています。この辺りは大量のごみが不法に投棄されていた場所。自分たちが生まれ育った地域が汚れ、荒廃していくことに心が痛み、近隣の仲間とごみ拾いを始めたのが最初です。今では住人やヘラブナ釣りの愛好家、遠方の方など二百人が参加する行事に発展し、捨てられるごみの量は激減。自然豊かな場所として認知度も上がりました。3年前より「篠津兵村フットパス」という名のウォーキングルートも整備。中津湖へ来たのをきっかけに、江別の野菜やお米のファンになる方が増えるなどの広がりも出てきました。

今回「きれいな川と暮らそう」基金の助成先に選ばれたことは非常に光栄です。助成金は地域おこしの啓発活動に活用させていただきます。



第10回 篠津川環境整備 (2010年6月5日撮影)

※「きれいな川と暮らそう」基金とは
ライオン(株)が洗剤「トップ」の売り上げの一部をこの基金の支援費用として提供し、(社)日本河川協会を通じて水環境を守る団体に助成を行うもの。今年度の助成先は全国22団体。